

1. 障害者をモデルに起用するファッション会社のトゥブデン社長



7-694を立ち上げたトゥブデン社長

軽快な音楽に合わせて踊る少年少女たち。さながら一流モデルのように、ポーズを決めながら、生き生きとした表情でカシミアマフラーやニット帽をアピールする彼らは、皆、ダウン症の子どもたちです。

この斬新な広告動画を制作したのは、モンゴル発のファッション会社「7-694」です。創業は、コロナ禍の真ただ中であつた2020年11月。

社名の数字は、「無限に広がる幸運の日」という意味

の単語をキリル文字で書いた時の文字数だそうです。

ネーミングのユニークさにも表れているように、創業者のトゥブデンさんは、独創性あふれる人物です。大学でビジネスを専攻し、トップカシヤメーカーのGOBI社に入社したものの、ハイエンドな同社のマーケティングに飽き足らず退社し、若者にターゲットを絞った7-694を立ち上げました。宣伝はSNSのみ。共同創設者でカメラマンの友人がSNSでダウン症児の母親の投稿を見つけたのを機にダウン症協会を訪ね、その場に居合わせた子どもたちを同社製品のモデルに起用することを決めたといいます。

さらにトゥブデン社長は、生まれつき肌や髪の色素が少ないアルビノの男性や、ふよやかな体形の女性を起用したCMも制作しているほか、撮影が終わってからも彼らに商品のタグ付けなどの仕事を定期的に依頼し、継続的な関係の構築を心掛けているそうです。

冒頭のCMに登場したビャンバスレンさんは、「モンゴルには“働く人の口には宝物が飛び込んでくる”ということわざがあります。僕もみんなとCMに出たり、仕事を手伝ったりできて嬉しい」と話します。その隣で、母親のオユンチメグさんも「障害者は何もできないという社会の眼差しを変えようとしてくれる社長に感謝しています」と微笑みます。



軽快な音楽に合わせて踊るダウン症の子どもたち
(7-694社のFacebook動画より)

目次

障害者をモデルに 起用する ファッション会社の トゥブデン社長 1

障害者の自立支援を 後押しするエネレル 職業訓練学校 2

「障害者も私たちと同じように音楽やおしゃれが好きで、社会とのつながりを求めていることを若者に知ってもらいたい」「私たちの商品を通じて障害者の社会参加の意義と可能性を広く伝えたい」というトゥブデン社長の思いは、まさに「働きたい」と願う障害者の企業への就労を支援するDPUB2の活動にも相通じるものであり、胸打たれました。独創的、かつ、分かりやすい形で次々と発信される社長の熱いメッセージがモンゴルの社会に浸透していくのを楽しみに応援したいと思います。



軽快な音楽に合わせて踊るビャンバスレンさん
(7-694社のFacebook動画より)

2. 障害者の自立支援を後押しするエネレル職業訓練学校



パッチワーク専攻の生徒たちと話すオユンガさん(左から2人目)

業訓練学校です。大工、調理、縫製、手芸の4つのコースがあり、希望者は無料で1年間、学ぶことができます。卒業生は53人に上ります。少し前にご紹介した、家具屋のドゥーニアメーベル社で働くガンドールグさんも、この学校の卒業生です。

バドドルジ学長に誘われて創設時から学校の運営に加わっている副学長のウユンガさんは、人事から経理まで運営全般を任されて忙しい毎日を送っています。「一人一人の個性を生かし、自立して暮らしていけるように手助けしたい」と話す表情には、使命感に満ちています。

障害者の就労促進に必要な取り組みの一つとして、それぞれの特性や個性に応じて職業訓練を行い、技術の習得を支援することが挙げられます。

12月初旬、DPUB2の広報担当スタッフ2人が、ウランバートル市内にあるエネレル専門学校を訪問しました。同校は、マラソン選手として知られるバドドルジさんが私財を投じて2016年に立ち上げた障害者向けの職



調理コースの先生、たまたま訪れていた見学者たちとともにDPUB2の広報担当者2人も記念写真

✉ dpub.jica@gmail.com

📍 United Nation's Street-5, Chingeltei district 4th khoroo, Ulaanbaatar, Mongolia-15160
Ministry of Labor and Social Protection

📘 <https://www.facebook.com/jicadpub1and2>

🌐 <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/030/index.html>

